



徳嶺勝信

10月のベトナム南部ホーチミンは雨期の終盤を迎える。特にこの時期は午後からのスコールが激しく道路が冠水する事も珍しくはない。ベトナム人は慣れたもので冠水時でもポンチョ・スタイルの雨がっぱをかぶってバイクで移動を続けている。

毎年、この時期に恒例になっている、世界経済フォーラムが発表した「世界競争力レポート2017」によると、ベトナムの世界競争力ランキングは、世界138カ国・地域の中で55位となり前年度60位から上昇した。

この世界競争力は①基本的要因（国内制度、インフラ環境、マクロ経済、医療、初等教育）②向上的要因（高等教育、市場効率性、労働効率性、金融市場発展度、技術力、市場規模）③ビジネス環境およびイノベーションの3要因に基づき評価したものである。評価を指数別でみると、基本的要因75位、向上的要因62位、ビジネス環境およびイノベーション84位となっており、中でも市場規模が31

急激に変化する街や人 ベトナム

位と高順位だった。

同ランキングの首位は9年連続でスイス、日本は前年の8位から9位に後退した。東南アジア各国の順位は、シンガポール3位、マレーシア23位、タイ31位、インドネシア36位、フィリピン56位、カンボジア94位、ラオス98位の順になっている。

正直、日本に住んでいる時は同ランキングの存在すら気付かず生活をしていた。しかしベトナムに住むようになってからはとても気になる。インフラを含む街並みや道路、公共・商業施設などが目を見張るような発展を続け、日々の変化を急速に感じるからだ。ベトナム人の考えや生活スタイル、豊かさも急激に変わっている。スピード感が日本よりも5〜10倍の速さで進んでいるように感じる。

現在、沖縄県や県内企業からベトナム視察も多く、関心の高さがうかがえる。しかしスピードについていけないように感じる。ベトナム在住の沖縄人がより多くの情報を発信し、地元沖縄でベトナムからの情報を集約できれば、より多くの沖縄人に選択肢が提供できる。同じような活動をASEAN各地で広げ、南米や北米など世界のウチナンチュを沖縄（ハブ）でつなげていければ面白い。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。